

平成29年度 学校評価（自己評価／年度末評価）

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充 			
項目担当	重点目標	具体的方策	中間評価	評価結果と課題
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすい学校だより ・分かりやすい駐車方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部だよりや分掌だより、他校の学校だよりを調べる。 ・必要な情報を吟味し、紙面割りを考える。 ・正規駐車場の通行順路を示すラインを引く。 ・保護者案内などに記載したり、呼びかけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の学校だよりを見て、参考にしながら作成している。 ・毎号、紙面割りについて検討し発行できている。学校だより110号については、愛びっく中止により、紙面を変更し発行する予定である。 ・夏季休業中にライン引きを行う予定であったが、時間を取れず実施できていない。今後年度内には行うつもりでいる。 ・PTA総会、運動会などの駐車方法・場所については、案内に記載してもらった。当日は、路上駐車等で近隣に迷惑をかけることなく終えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより110号について、愛びっく中止により、紙面割を変更し、学校祭の様子を増やして発行した。 ・今後も各部だよりや分掌だよりの内容を洗い出し、保護者が知りたい情報や内容は何かを検討していく必要がある。 ・夏季休業中に実施できなかった正規駐車場の通行順路を示すための矢印のラインを3学期早々に実施できた。 ・職員に向けて、駐車範囲が分かるような看板や、駐車禁止の場所に看板を設置したことで、職員も意識して駐車していただけるようになった。今後は、多様な駐車パターンなどの決まりごとを周知していく必要がある。 ・行事等などの駐車方法・場所についての保護者への周知は引き続き徹底していく。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領改訂に向けた教育課程の改善 ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を生かした支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部、中学部、高等部重複障害学級の教育課程の見直しを進めるとともに、高等部新教育課程の検証を行う。小・中・高のつながりのある教育課程となるよう検討を行う。 ・各教科・領域における適切な指導目標の設定や効果的な手だての模索に生かせるよう必要な情報を再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程講習会で研修した次期学習指導要領の改定内容等を、11/28の現職研修で全職員に向けて伝達し、新学習指導要領の共通理解を図りつつ、その全面実施に備え、新しい教育課程の検討につなげたい。 ・小学部、中学部における現教育課程の課題を各部・教務部で共有した。今後、教科・領域会等とも連携を図りながら各部を中心に見直しを進める。 ・H30年度実施に向けて、「特別の教科 道徳」の各視点における発達段階ごとの指導内容の案を道徳科とともに検討中。10/18の第3回教育課程委員会で提案の予定。小・中・高の傾斜を踏まえつつ、評価の仕方についても考え合わせて、学年ごとの重点指導内容案を作成していく。 ・個別の教育支援計画に、個々の児童生徒にとっての適切な合理的配慮を掲載するため、新様式を検討中。様式についてのその他の意見も踏まえつつ、変更について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導要領総則について、その主な内容の共通理解を図ることで、それに対応し、かつ、本校の教育目標、児童生徒の実態に合った新教育課程編成に向けて、全職員の意識を高められた。来年度は、児童生徒の実態を踏まえた上で、小学部、中学部、高等部の傾斜も考慮しつつ、適切な教育課程となるよう検討を進めていく。 ・平成30年度より、小学部で「特別の教科 道徳」の評価を始めるための準備が進んでいる。今年度中に完了の予定。観点別の指導段階表を作成し、指導目標の設定に役立たせる一方、評価の仕方についても全職員の共通理解を図れるよう、評価の例示等を行っていく。 ・各部で個別の教育支援計画の様式について意見を集約した。各部の実情を考慮、また、高等部については、サポートブックや移行支援計画との兼用を含め、より適切な様式になるよう検討を進めていく。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・基本的生活習慣の定着 ・防災体制の充実 ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・SB6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整） ・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・挨拶の習慣、身だしなみの意識、持ち物を管理する力を高め、好ましい生活習慣の定着を図る。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。 ・職員会議でいじめ防止基本方針の共通理解を図る。学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象に、いじめに関連したアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望、地域からの連絡に対し、コースやバス停の位置の調整をして、安全対策、適正運行を図った。現在、次年度に向け、より安全かつ円滑に運行できるコースの見直しを進めている。 ・通学時、自転車の交通事故が8件発生した。7月には一宮署に依頼し、交通安全教室を自転車通学者に対して実施した。 ・週番、児童会、生徒会を中心に挨拶運動を進めている。 ・繰り返しの訓練により、職員の防災対応意識が高まっている。今後、掌握時の職員の体制や職員の点呼方法について検討する。 ・備蓄食糧を三日分と500mlペットボトル1本を用意した。 ・年度当初の職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、1学期末にいじめ不登校対策委員会、いじめに関連したアンケートを実施した。重大な問題はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望、地域からの連絡に対し、迅速に対応し、コースやバス停の位置の調整等をして、安全対策、適正運行を図った。 ・通学時、自転車の交通事故が12件発生した。7月には一宮署に交通安全教室を、自転車通学者に対して実施した。3学期には、事故者を抽出し、交通安全指導を実施した。次年度も、一宮署の交通安全教室を計画する。 ・週番、児童会、生徒会を中心にあいさつ運動を進めた。スクールキャラクターを活用した（着ぐるみ、シール）あいさつ運動を2学期に実施した。利用したのぼり、たすき等は次年度も利用する。 ・南海トラフ地震に関する情報（臨時）やJアラートミサイル発射情報発表時の対応について、学校の方針を策定した。今後の政府の動向（方針）に注意を図る。 ・備蓄食糧を次年度入学者から、水〔2L・3本〕を〔2L・2本〕と〔500ml・4本〕に変更する。 ・年度当初の職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、1・2学期末にいじめ不登校対策委員会、いじめに関連したアンケートを実施した。1年間、重大な問題はなかった。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会等を開催し、保護者の意識を高める。 ・進路コーナーを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの進路講話会として、外部講師（福祉施設）による講話を二回実施した。 ・第一ホールの進路コーナーを作り直した。各市町ごとに福祉施設の情報等をファイリングし、保護者に情報提供を行えるようにした。保護者に活用してもらえるように進路だより等を使って、周知して 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設から通学する生徒を中心に、地域支援部と連携しながら早期から個別支援会議を実施し、卒業後の進路について共通理解を図ってきたことで、希望者全員企業から内定を受けた。 ・卒業後の職業生活及び地域での生活の安定を図るため、相談支援センターや福祉課、障害者就業・生活支援センターとの連携に努めた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の進路指導における専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係分掌と連携し、児童生徒の抱える課題に応じて、個別支援会議を開催し、地域につなげられるよう努める。 ・職員向けの現職研修や進路講座等を充実させ、進路情報を積極的に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきたい。 ・地域支援部と連携し、地域の相談支援機関を交えて情報交換や個別支援会議を実施し、個に応じた進路指導を実施している。 ・高等部を中心に、メソフィアや学年の打ち合わせで最新の進路情報を提供している。今後は、小中学部の職員にも各福祉サービスの内容等について、情報提供をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、卒業後の福祉サービス利用の手続きの仕方と一般就労までの流れについて、職員に随時情報を発信し、情報の共有や進路指導の専門性の向上を図りたい。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心的な役割を果たす。 ・緊急対応訓練を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 ・教育活動全体を通じた食育指導によって好ましい食習慣を形成する。 ・児童生徒の健康観察を保護者と連携し、安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・感染症対策の観点から、冬場の校内一斉換気や配膳する人（児童生徒及び職員）の健康観察をしっかりと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康観察や、情報を共有することで保健室経営をしっかりと行うことができている。 ・緊急時に落ち着いて内線電話がかけられるように、校内電話ボックスに設置しているカードを新しくしたことにより、分かりやすくなった。児童生徒の発作時にも、緊急対応カードを活用しており、職員間に安全意識が高まってきている。 ・摂食指導を通して食への興味を引き出すことで、少しずつ好ましい食形成につながりつつある。 ・環境整備を通じて、安全・安心な学校づくりを心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康観察をしっかりと行い、各部主事からの連絡を受け情報共有することができた。 ・緊急時に冷静に内線電話がかけられるように、カードをカラーにし見やすくかつ分かりやすい表記のカードに変更した。実際に発作などで保健室に連絡するときなどに役立っていた。 ・摂食指導については、学校歯科医にも協力を仰ぎ給食の場面を見てアドバイスをいただきながら実施したが、今後もどのように連携が図れるかが課題である。 ・環境整備については、管理場所を中心に清掃しているが何箇所も掛け持ちしている職員の負担をどのように軽減するか、曜日を決めて管理場所以外の清掃などが行えるよう工夫が必要であると感じた。 ・食物アレルギーの児童生徒への誤配食などが発生したため、今後はダブルチェックの実施や校外での対応の徹底などしっかりと行っていきたい。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健に関する研修では、体験用エピペンを使用して実際と同じような対処法を経験することで、アレルギーの対応について身近に感じ、児童生徒の安全について意識を高めることができた。 ・夏季休業中の研修では、指導、教材の工夫や、人権に対する理解など、教員の資質の向上につながるきっかけとなる機会を得ることができた。 ・今後の現職研修の在り方として、地域支援部 保健体育部、進路指導部や外部講師を招いての講話も含め、どのように行っていくと良いかを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具の工夫や、人権に対する理解など、現職研修において、教員の資質の向上につながるきっかけとなる機会を得ることができた。 ・来年度は、現職研修を学びの場としてさらに教員が主体的に臨めるよう、アンケート等を通して得られた興味関心や認識すべきことなどを参考に、有意義な研修を行っていけるよう他校務分掌と協力、工夫していきたい。
視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用の推進 ・図書室の円滑な運営および、児童生徒の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・普通教室用視聴覚機器（CD ラジカセ等）の更新。 ・利用しやすい図書室を目指した環境整備。 ・図書の紛失防止に努め、貸出・返却方法の周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室の不要物を一部廃棄して、機器の配置を整理して利用しやすくした。今後も整理を進めていきたい。 ・普通教室用のCD ラジカセの更新を進めた。不具合が生じた物は交換していく。 ・未返却本の督促を進め、紛失本は減ってきた。 ・イベントや季節の本として紹介するために本の表紙をラミネートしたものを掲示し、図書室の利用促進を行った。 ・読書週間に移動図書室を企画している。本を身近に感じてもらえることを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室の整理をして使用頻度が低い物品が多くあることが分かった。引き続き計画的に機器の更新と廃棄を進めたい。 ・大型テレビの更新を進めた。今後も老朽化したものの更新を進めていきたい。また機器を接続するコードも更新していきたい。 ・運動会などの行事で使用する視聴覚機器の設置方法などをマニュアル化し、多くの職員で準備することができるようになった。 ・新規購入図書のカラー表紙を付けて配架した。児童生徒の目にとまりやすくなり、利用が増えた。 ・移動図書館は概ね好評だったので継続していきたい。宣伝、返却方法など検討し、より良い活動になるようにしていく。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に対する先導と分掌間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なサポートとともに、夏季休業中に情報機器活用講座を開催する。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に、校内の情報機器活用講座を開催した。資料提供や日常的なサポートを引き続き、行っていく。 ・情報モラルアンケートを、中学部と高等部の保護者および高等部生徒に実施し、担任と連携して、アンケートの結果を、個別懇談に活用できた。 ・生徒指導部と連携して、携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室を実施した。また、その時の資料を、高等部全員への支援に活用した。今後は、担任や学年と連携して、情報モラルに関する働きかけを進めていく。 ・自立活動部と連携して、タブレット端末の校内研修会を行った。利用事例を集約したり紹介したりして、利用促進を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や自己点検票の配付を定期的に行うとともに、情報機器の管理方法を見直すことができ、セキュリティ意識の向上を図れた。 ・携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室や情報モラルの授業を、計画的に実施できた。来年度も継続したい。 ・タブレット端末について、校外の講習会に複数の職員が参加する等、研究を進められた。校内への還元が十分にできなかったため、他分掌との連携の見直し等、来年度の課題として引き継ぎたい。
地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動や地域支援活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務部会を利用して相談に関する研修やケーススタディ等を行い、職員の専門性の向上を図る。 ・個別支援会議を開催し、関係機関等との連携を図るとともに、児童生徒が必要とする支援体制等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務に関する研修を6月に行い、相談の基本や進め方等、相談担当者としての基本的姿勢を確認した。 ・応用行動分析を活用した児童生徒の行動理解について研修を行い、夏季研修会の分科会講師を全員で担当した。 ・高等部3年間を通して、養護施設に入所している生徒を中心に学年主任や進路指導部等と連携して計画的に支援会議を実施している。小・中学部の児童生徒の中にも地域の支援機関とのつながりが必要か、という担任からの相談も増えてきており、支援会議が必要かど 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や教職員からの相談場面を想定しながら、たんぼぼ相談の進め方や、児童生徒の気になる行動についての見立て（応用行動分析）等について研修を行い、共通理解を図ることができた。また、相談経験を積んだ教員と若手教員をペアにして相談を担当し、できるだけ多くの教員が相談業務に携わる環境を整えた。 ・高等部卒業後の生活の安定を図るため、また学校や家庭だけでは解決できない問題を抱える児童生徒に対して個別支援会議を定期的に関くことで、支援の目標（ゴール）や支援内容、担当の割振り等について関係者で共通理解して支援に取り組むことができた。また、支援会議を開くまでには至らなかったが、関係機関と連絡を取り合うことで地域での支援が進んだケースが

			うかも含めて連絡を取りあえる関係づくりを進めているところである。	あった。今後も、相談支援に関する情報の共有や専門性を高めていくという意識をもって、支援を行っていきたい。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導支援の検討・整理及び提供 	<ul style="list-style-type: none"> 教科・領域における指導方法や支援方法の検討、整理を行ったり、個別の指導計画の目標のモデルを検討・整理したりして、職員間のコンセンサスの形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間割表のモデルを各部それぞれに作成し、年度当初の業務の軽減を図ると共に、モデルに使用する字体や色を部間で統一し、児童生徒がスムーズに学校生活を送るための取組を、教科・領域会と連携して進めている。年度内に作成を完了する予定。 個別の指導計画の目標作成例集を作成、配付した。また、「知的障害教育校における自立活動について」と題した現職研修を開催し、職員間の知識の共有を図った。目標作成例集については、来年度に「手だて」の項目を追加することを検討している。また、来年度の現職研修についても年度内に方針を決め、引き続き自立活動への理解が深まるよう計画を立てていく。 教材・教具の整理、紹介について、教務部と業務の持ち方について調整中。既存の資源の有効活用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・領域における自立活動を意識した学習指導や主体的な取組を引き出す指導について、各教科・領域会と連携して、指導方法や支援の工夫についてまとめ一覧表を作成した。各教科・領域内部で共有している優れた取組を教科・領域の壁を越えて共有できるような活用の仕方を検討していく。 学部間のスムーズな進学を支援するための時間割カードを、領域会（自立活動）と連携して完成させた。字体と教科毎の色を統一し、児童・生徒の実態に応じて、イラスト入りのものや色入りのものを各学年・学級で選べるようにした。また、学習ファイルの色とも揃えて、生活しやすい環境を提供できるよう整備した。 個別の指導計画の目標作成例集のバージョンアップに取り組んだ。目標に対応する「指導上の要点」（手だて・教材等の紹介）を追加するための編集を新年度当初までに終える予定で進めている。今後も、職員のニーズを探りながら見直しを重ねていく。 夏季現職研修で学んだことを「自立活動部だより」にまとめた。研修がより有効に生きるよう、研修内容やフォローアップの充実が今後も課題となってくる。 既存の教材・教具の整理については以下の二点に取り組んだ。 (ア) 小学部棟で管理している大型教材を中学部・高等部でも活用しやすいよう紹介した。自立活動の時間の指導での活用を推進していく。 (イ) 数学科で管理しているタイムタイマーや型はめ教材を自立活動部管轄に移した。既存の教材を活用した実践報告など、推進のためのさらなる方策が必要である。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階を踏まえ、身辺処理や遊びを中心とした日常生活の基本的な力を基礎から見直す。 安全な生活環境の整備や個の実態に応じた支援を充実させることでけがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。 自立活動の視点を取り入れた授業実践を職員間で共通理解して行い、個に応じた支援を行える場や時間について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研究や教科・領域会（遊びの指導）で、児童の発達に応じた指導内容や支援の方法を検討している。実施した発達検査のデータ集約を行い、職員に提示した。今後、データ結果を取り入れるとともに、勉強会を実施し、より具体的な指導内容や支援の方法を検討していく。 情緒不安定による児童の自傷、他害行為が数件あり、病院受診のケースもあった。学習環境整備や児童情報の共有を再度徹底するとともに、他学年職員に授業を依頼する際には、依頼票に留意事項等を記載することで、児童の行動を予測した支援体制の充実をより一層図りたい。 職員間で個々の児童の目標を学年会や個別の指導計画を基に情報共有しており、自立活動の視点を踏まえた学習支援が少しずつ進んでいる。自立活動の目標一覧を学年職員に配付したことで、より個々の児童の目標を意識した支援ができるようにする。また、保護者との共通理解をより図って支援が進められるよう、引き続き、懇談会や連絡帳を通して丁寧に説明を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた指導内容や支援方法を、全校研究や発達検査のデータを基にして検討し実践した。職員間で、小学部卒業までや将来身に付けたい力は何であるのかを意識した指導を考えることができた。今後、児童が基礎・基本の力を身に付け、自分でできることを増やすために、どのような学習内容で何を指導すべきかなど、行事の精選を含めた学習計画全体の見直しが必要である。 教材室を有効活用し、教室内の学習環境を整えることで、安全な学習活動が展開できた。学年会や部会で、児童の行動を予測した配慮、職員配置等の確認や校内の危険箇所等の情報共有を行った。万が一、けが等があったときに、状況説明が確実にできるよう、職員の危機管理意識の向上と、報告・連絡・相談の一層の徹底を図りたい。感染症の流行期には、一学年の閉鎖はあったが、学習内容の見直しや他学年との交流を極力避けるなどし、部全体への蔓延は防ぐことができた。 登校後や給食後の時間で個々の児童の実態に応じた課題を設定したり、職員間で共通理解をもって自立活動に重点をおいた授業を展開したりと、自立活動の視点を踏まえた学習支援が充実してきた。保護者に対しても、学習や生活の下支えとなる必要な力は何かを十分に話し合い、共通理解をもって支援ができるようになってきた。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が「分かった」「できた」と感じられる授業を創り、笑顔あふれる中学部をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> UDの視点から補助具を開発したり、環境を整えたりして生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業場面において ICT 機器や写真・イラストを積極的に用い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。 授業場面では、習熟度を考慮した小グループ編成や活動内容の精選などの工夫を行い、生徒の活動量の増大を図っていくことが課題である。 中学部集会で「ありがとうチャンピオン」として、みんなのために積極的に活動した生徒を表彰したり、近隣の公園に出向き校外での販売実習を展開したりするなど、生徒が他者に認められる活動を取り入れることで、自己有用感及び自己肯定感が高まり、自信をもって笑顔で楽しく学校生活を送る姿が目立つようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を充分把握し、ICT 機器の活用や写真・イラストなどを用いた授業が積極的に展開され、生徒が「分かった」「できた」と感じられる場面が増え、笑顔で授業に参加することができた。 それぞれの単元・授業における生徒の取組状況、学習内容の定着等の評価をする機会を増やし、共通理解の上指導していくことが大切であり、今後の課題となる。 分かりやすい授業、集会活動での発表や表彰、校内・校外での販売実習、いきいきタイムなどで生徒一人一人が輝く場面を数多く設定することで自己有用感・自己肯定感の高まりが感じられ、毎日元気に登校し、意欲的に学校生活を送る姿が目立った。 校内研究において「中学部の目指す生徒像について」職員間の共通理解を図り、学校生活全般における指導に反映させていくことが今後の課題である。 個別の指導計画、教育支援計画の有効的な活用が望まれる。

高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加のための力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあった指導を行う。 ・学校生活の様々な行事を通して、基本的な生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から教育課程を増やし、より個に迫った指導を展開できるようにしたことで、落ち着いて学校生活を送ることができている。指導の中では合理的配慮の観点から視覚支援などでアプローチができるような教室掲示や教材・教具が以前よりも多く見られるようになってきており、どの生徒にとってもより理解しやすい学習環境が整備されてきている。 ・産業現場等における実習・校内実習での経験を通して挨拶・返事・報告などの働く上で必要となる態度が身に付きつつあるが、他部の教師に対しての挨拶や自分から自発的に挨拶をすることに対しては課題が残る。 <p>また、生徒の実態に応じてより少ない支援で生活できるようになることを目指し、学校生活や授業の中で自分で考える機会を多く設定することで、自己判断、自己選択、自己決定の力が身に付きつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく起こした教育課程の対象である生徒の学習については、自立活動の視点を生かした学習内容を提供することで見通しをもった学校生活を送ることができた。その他の生徒についても継続して学習環境の整備等に配慮し、支援ができるようにしていきたい。今後の課題としては、新しい教育課程の1年間の実践を通して、成果等を検証し、来年度以降の生徒の実態等を考慮したうえで、適切な教育課程での学習を前提とした学習内容の検討・改善・工夫をしていく必要がある。 ・卒業後の生活を想定して、様々な学習場面で「支援しすぎない」学習環境を設定することで、自己判断、自己選択、自己決定の力が身に付きつつある。今できていることを減らすことなく、できることを増やしていくためには課題の定着と目標の見直しが必要である。今後はより適切に生徒の実態把握を行い、必要な支援を見極めるとともに、高等部の生徒として育成したい「目指す生徒像」を整理し、これまで以上に明確にすることで卒業後の生活にスムーズに移行できる力を身に付けていきたい。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で気持ちの良い学習環境の整備 ・12年間を見据えた支援を進める。(日常生活の指導、作業学習を中心に) 			